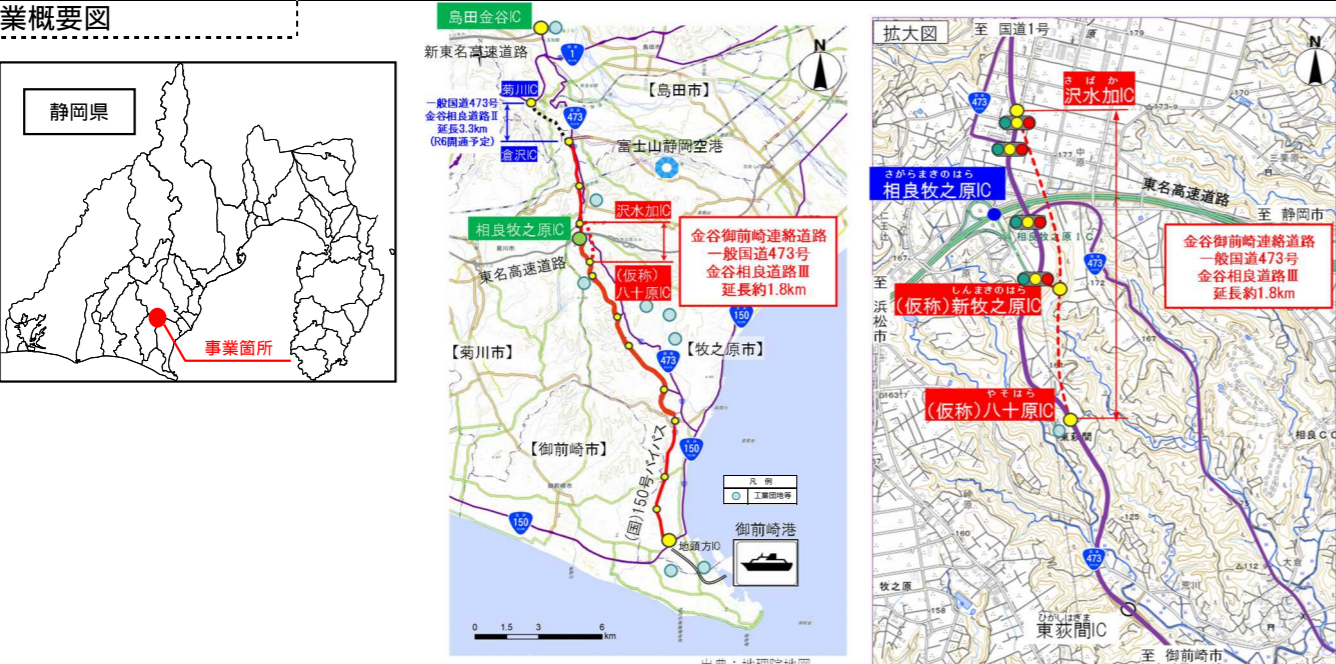


新規事業採択時評価結果（令和5年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
担当課長名：長谷川 朋弘

事業の概要

事業名	地域高規格道路 金谷御前崎連絡道路 一般国道473号 金谷相良道路	事業区分	一般国道	事業主体	静岡県
起終点	自：静岡県菊川市沢水加 至：静岡県牧之原市東萩間	延長	1.8 km		
事業概要 一般国道473号金谷相良道路は、地域高規格道路金谷御前崎連絡道路の一部を構成する道路であり、新東名、東名、御前崎港、富士山静岡空港を連結し、陸・海・空の総合交通ネットワークを形成し、県内南北軸の道路ネットワークの強化等を目的とし、東名相良牧之原インターチェンジ周辺の沢水加ICから（仮称）八十原IC間の延長約1.8kmを整備するものである。					
事業の目的、必要性 金谷相良道路は、東名相良牧之原IC周辺の混雑箇所の回避による幹線道路機能の強化や、物流ルートの機能強化・安定化による観光・産業の促進が期待される。					
全体事業費	120億円	計画交通量	10,100台/日		
事業概要図 					

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.1	総費用 84億円 事業費：83億円 維持管理費：0.62億円	総便益 93億円 走行時間短縮便益：78億円 走行経費減少便益：13億円 交通事故減少便益：1.4億円	基準年 令和4年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=0.99（交通量 -10%）	B/C=1.2（交通量 +10%）		
		事業費変動	B/C=1.00（事業費 +10%）	B/C=1.2（事業費 -10%）		
		事業期間変動	B/C=1.1（事業期間 +20%）	B/C=1.1（事業期間 -20%）		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		・当該道路の整備により、通過交通を当該道路に転換させることで、平日夕方を中心とした混雑の緩和が期待される。 整備前 信号交差点4箇所 0箇所（IC構造で東名高速道路と接続）		
		事故対策		・当該道路の整備により、現況交通量約10,600台/日（H27センサス）が約6,800台/日（推計値）に減少し、事故の削減が見込まれる。 国道473号（現道）の相良牧之原IC付近の八十原交差点を含む3箇所の交差点は、周辺の小・中学校の通学路となっているが、この区間は国道473号の中でも事故が多く、負傷事故が29件/10年発生している。		
	歩行空間	-				
	社会全体への影響	住民生活		・国道473号相良牧之原IC付近の混雑緩和による市民生活の利便性の向上		
		地域経済		・当該道路の整備により、国道473号の急勾配区間や信号の回避により、大型車の走行環境が改善されるなど、重要物流道路としての機能強化・安定化が見込まれる。 ・御前崎港（重要港湾）相良牧之原IC（東名高速道路）富士山静岡空港へのアクセス向上 ・金谷御前崎連絡道路周辺の工業団地等へのアクセス向上		
		災害		・国道473号は第1次緊急輸送道路に指定されている。本事業により信号交差点を含む現道区間を回避することになり、電柱倒壊や停電による信号の制御不能の影響を受けない信頼性の高いネットワークが確保される。		
環境			・渋滞緩和によるCO2排出量の削減			
	地域社会		・観光（海洋レジャー（海水浴客数 御前崎市3.1万人/年、牧之原市43.9万人/年 [H30]））、産業（御前崎港（取扱量286万フレートトン [R1]）、自動車関連工場等）等の地域産業の促進			
事業実施環境	○	・地元の自治体である牧之原市などから早期整備に関する要望を受けている。				

採択の理由

事業主体である静岡県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.1と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。  
また、緊急輸送路の信頼性も高まることから、当該事業の整備の必要性・効果は高いものと判断される。  
以上により、本事業は令和5年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

関係する地方公共団体等の意見

・地元の自治体である牧之原市などから本事業の早期着手の要望活動が行われている。

学識経験者等の第三者委員会の意見

事業採択の前提条件

・費用対便益：便益が費用を上回っている。  
・地元の自治体である牧之原市などから早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。